

被災の根室本線 廃線狙うJR

真下道議が現場を訪問・聞き取り

2016年8月末の台風で不通となったままのJR根室本線(新得―東鹿越)。JR北海道は廃線を狙っています。時おり激しい雪が舞う中、日本共産党の真下紀子道議は19日に被災現場を回り、関係自治体幹部らと懇談しました。

南富良野町の高橋秀樹副町長は、住民から必ず出る言葉は「根室線(存続)の話はどうなるのかです」と切り出しました。一昨年の台風の数日後、役場を訪れた島田修社長は「新得―落台間の復旧は来年(17年)春ごろまでに行う」と述べたこと。それなのに、その後何の行動も

起こさないJR北に対して、住民の不信は高まっています。

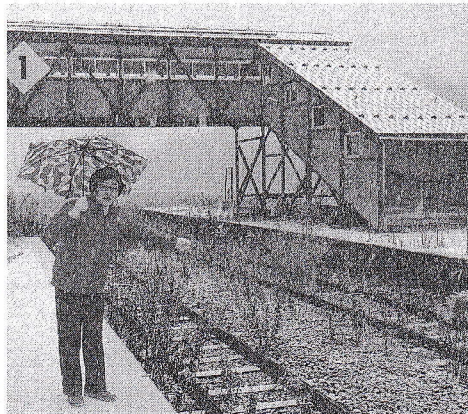
「ぼっぼや」の駅

映画「鉄道員(ぼっぼや)」で有名になった「幾寅駅」は南富良野町にあります。訪れた時に駅舎に人影はありませんでしたが、待合室には生花が飾られ、長いすには手づくりの座布団が敷かれ、列車の到着を待ち望むかのよう。地域住民の鉄道への愛情が強く感じられました。

一方、新得―東鹿越間では、線路にはさびが張りつき、雑草が駅舎のホームの高さまで伸び放題の惨状です。いくつものトンネルの

「ぼっぼや」の駅

「復旧の約束」はどこへ



ホームで線路の状況を調査する真下氏＝北海道南富良野町

出入り口付近などでは、線路がすでに撤去され、枕木だけが取り残されています。観光客が激減し

観光客が激減し

新得町の金田将(すむ)

副町長は「新得町は昔から、富良野方面と滝川方面、帯広方面を結ぶ交通の要として発展してきた町」「交通ネットワークが分断されれば、2年前

の台風と今回の地震では、落ち込んだインバウンド客(訪日外国人旅行者)が、さらに減少してしまう」と不安顔で語ります。

真下議員は「JRの

島田社長には「約束を守れ」と必ず質問します。早期復旧めざし一緒にがんばりましょう」と激励しました。新得町には、青柳茂行前党議同行しました。

(三上博介・党道議団調査員)